



# 図書館報 みかづら

和歌山県立医科大学図書館三葛館



## 目 次

図書館報みかづら第 27 号の発刊に あたって..... 1	令和 4 年度三葛館活動記録..... 3
本との出会い..... 2	いざ、図書館へ、三葛館へ！..... 4
読書は五感を刺激する..... 3	

## 図書館報みかづら第 27 号の発刊にあたって

保健看護学部 教授・図書館副館長 宮 井 信 行

「図書館報みかづら」第 27 号をお届けします。本号では、今年度で退職される 3 名の先生にご寄稿いただきました。本との出会いにまつわるエピソード、読書や図書館に対する思いなど、心温まるメッセージが綴られています。ぜひ、お読みください。

さて、三葛館では、今年も 4 年生を対象にベストリーダー賞の表彰を行いました。この賞は、在学中の図書の貸し出し数が上位の学生に贈られ、図書館の活発な利用と積極的な学びの姿勢をたたえるものです。本は、単なる知識の蓄積にとどまらず、想像力や洞察力を培うための重要な手段です。読書を通じて、他者の経験や知識に触れることで自己の成長が促されます。図書館には、医学・看護学に関する専門書やジャーナル、多様なジャンルの小説、詩、エッセイなど、皆さんの学びと成長のための貴重な資源が豊富に揃っています。また、静かな学習空間やグループスタディールーム、デジタルリソースへのアクセスなど、様々な学習支援サービスも提供しています。自分の興味や目的に合わせて図書館の世界を探索してみてください。きっと新しい発見が待っています。

新型コロナウイルス感染症が国内で初めて確認されてから 4 年が経過しました。昨年の 5 月にその感染症法上の位置づけが 5 類感染症に移行されたのを機に、全国の図書館ではコロナ禍にとられていた措置が徐々に緩和されました。三葛館においても、グループスタディールームの利用再開に加えて、平日の夜間開館時間が延長され、ようやく以前のような活気が戻りつつあります。また、学外者の図書館利用

が再開され、来館者数や貸し出し冊数も随分と回復してきました。

コロナ禍には、休館や開館時間の短縮など、利用サービスの縮小を余儀なくされました。しかし、その一方で、リモートアクセスサービスを導入し、学外からデジタルコンテンツやオンラインリソースを利用できる環境が整備されました。デジタルテクノロジーの急速な進歩に伴い、図書館の役割や機能も大きく変わろうとしています。そして、この変化は今後さらに加速するものと予想されます。こうした状況に対応しながら、これからも多様なニーズにお応えするべく、サービスの充実に努めてまいります。皆様の温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。



## 本との出会い

保健看護学部 教授 岩村 龍子

我が家の屋根裏には私が子どもの頃に読んでいた何冊かの本が眠っている。奇巖城などのアルセーヌ・ルパンのシリーズや、その後にアニメ化もされた巖窟王などもある。内容はすっかり忘れたに等しいが、子ども心に物語の展開にわくわくしながら読み進めた記憶だけが鮮明に残っている。そのため、転居など、たびたびの断捨離の機会があったにもかかわらず生き延びている。本好きの父が買い与えてくれたもので、選択もよかったのだと思う。読書の楽しさを知って、その後、父の本棚にある大人向けの図書に手を伸ばすきっかけにもなった。

同じ体験をしてほしくて、子どもたちが小さい頃に読むように勧めてみたが、「字がいっぱいで読む気がしない」と言われた。そして、そのまま屋根裏に戻った次第である。

さて、これらの本をどうするか？ 幸いにもこの3月で定年退職の身には、これから時間がいっぱいあるはずである。もう一度読んで、何が子ども心を捉えたのか確認してみたい。そしてそれで納得できたら、ようやく捨てることができるかもしれないと期待している。

## MIKAZURA NOW!

2022年度 利用統計	
年間開館日	265日
入館者数	5,289人
(1日平均)	20人
貸出人数	2,031人
図書貸出冊数	5,647冊
視聴覚資料貸出件数	83点
相互利用依頼件数	235件
相互利用受付件数	719件
学外利用者数	0人

三葛館の蔵書 2022	
蔵書冊数	66,200冊
うち洋書	9,237冊
所蔵雑誌種数	1,123種
うち外国語	148種
年間受入図書冊数	989冊
うち洋書	5冊
年間受入雑誌種数	221種
うち外国語	1種
(2023/3/31 現在)	

## 読書は五感を刺激する

保健看護学部 教授 服 部 園 美

2年前から老眼で活字が見づらくなり、好きだった文庫本が読めないストレスから電子書籍に切り替えました。文字を大きくすることで読みやすくなりましたが、心地よい刺激が感じられないことに最近気づきました。その原因として、五感を感知することができなくなっているからではないかと考えるようになりました。看護でよくつかわれる「見る」「聴く」「嗅ぐ」「触る」「味わう」という五感です。表紙のデザインや活字の字体や色を感じる（視覚）、ページをめくるときの音（聴覚）、重たさや手ざわり、紙質を感じる（触覚）、紙の匂い（嗅覚）、読む環境、本を味わう（味覚？）の五感の刺激が電子書籍では感じられないのです。

「読書は、今まで見えていなかった自分を発見する機会になったり、ステップアップや反省のきっかけになったりするだけでなく、癒しや刺激になり、私のサプリメントになっています」。これは、私が「図書館報みかづら第10号」に書いた記事の一部です。読書は、五感で本を体験し、本の中に入り込み、想像力を駆使すればどの時代のどんな人の人生をも生きることができます。自分の想像力でいかようにも色をつけられることが魅力です。しかし、Z世代はYouTubeやTikTokなどによりさまざまな情報を得られるようになったことで、それに使われる時間が増え、相対的に活字離れが進んでいるといわれています。学生の皆さんが本から五感を感じ、想像力でいかようにも色をつけられる魅力に親しんでほしいと願っています。

### 令和4年度（2022年度）三葛館活動記録

4月5日	保健看護学研究科 新入生オリエンテーション
4月7日	医学部 新入生オリエンテーション 保健看護学部 新入生オリエンテーション 助産学専攻科 新入生オリエンテーション
4月28日	第1回保健看護学部図書委員会
8月8～12日	蔵書点検
9月12日	第2回保健看護学部図書委員会
2月1日	令和4年度保健看護学部卒業生バストリーダー表彰式

### 令和5年度バストリーダー賞

令和6年2月1日に在学中貸出冊数上位者の表彰を行いました。今年度の卒業生1人あたりの平均貸出冊数は23冊で、第1位の方の貸出冊数は165冊でした。4年前の2020年は、新型コロナウイルス流行に伴い図書館の利用制限を始めた年でもありました。多くの制限がある中、図書館を活用していただいたことを嬉しく思います。卒業生の皆様、図書館をたくさんご利用いただきありがとうございました。



## いざ、図書館へ、三葛館へ！

保健看護学部 教授 水 越 正 人

自分の専門領域については成書よりも図書館を通じて PubMed 等の検索を活用して専門ジャーナルで最新の研究論文を読むことが主体です。大学では多くのジャーナルにアクセス可能で知識欲を満たせる楽しい時間を享受できます。一方で、教養・嗜好中心の読書行動では、書店を定期的に歩き回る、ネット検索でどのような本があるか探し回っています。

そこで、三葛館内で雑誌・書籍を探し歩いてみました。通常は最新のジャーナルをネット上で読むので、図書館へ行く必要はありません。だから、館内を歩くのは久しぶりです。ただ、新着案内はいつも確認しています。それなのになぜ足が向かなかったのか？ 新着本のほとんどが学習用だからです。しかし、学生にとってはこれらの本は学びやすく非常に有用です。ぜひとも利用して下さい。1つの事象がいろんな方向から説明され、普段の疑問点が解決します。

では、医療に直接関係しない書籍はどうかと探してみました。評論や小説にはあまり新しいのはなさそうです。雑誌では「中央公論」、「暮らしの手帖」、「日経サイエンス」、「多聴多読マガジン」が継続購入され最新刊がありました。残念ながら、教養・嗜好という点ではボリューム不足で、ここは自治体などの図書館の出番の様です。致し方ありません。個人的には、海南 nobinos でスタバのコーヒー片手に絵本めぐりが好きです。

三葛館の大きな役割はやはり医療専門職に必要なジャーナル、そして看護学を学ぶ手助けとなる書籍を教員・学生に提供していただくことでしょう。その役割は、今も十分に機能しています。もっと足を運んで三葛館に眠っている知識を自分のものにして、プロフェッショナリズムを高めましょう。



### 編集後記

2023年、新型コロナウイルス感染拡大防止のために設けていた図書館利用制限も解除となりました。ご理解・ご協力いただき誠にありがとうございました。

今後も、三葛館が皆様の勉強・研究・憩いの場となるよう努めて参ります！



令和6年3月30日発行

図書館報 みかづら (第27号)

編集・発行 和歌山県立医科大学図書館三葛館

〒641-0011 和歌山市三葛 580 番地

TEL (073) 447-2300 (代表)

(073) 446-6721 (三葛館)

FAX (073) 446-6730 (三葛館)

<https://opac.wakayama-med.ac.jp/drupal/>

